

第3回 安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会

日時：令和6年7月19日（金）

午後5時30分から午後7時

会場：安曇野市役所4階 大会議室

次 第

1 開 会

2 県教育委員会あいさつ

3 新構成員紹介

4 会議事項

(1) 第2回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会まとめ

(2) 各校の学校・学びの紹介

- ・南安曇農業高等学校
- ・穂高商業高等学校
- ・池田工業高等学校

(3) 意見交換

5 その他

次回の予定

【日時】 令和6年10月頃（予定）

【場所】 （調整中）

【内容】 （未定）

6 閉 会

安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会 構成員名簿

令和6年度7月以降

(敬称略)

	区分	氏名（座長◎）	所属等	役職等
1	自治体	中山 栄樹	安曇野市	副市長
2		宮澤 達	池田町	副町長
3		橋渡 勝也	安曇野市教育委員会	教育長
4		山崎 晃	池田町教育委員会	教育長
5	産業界	高橋 秀生	安曇野市商工会	会長
6		栗原 裕	J Aあづみ	総務開発事業部長
7		宮崎 鉄雄	池田町商工会	事務局長
8		傳刀 勇	J A大北	総合企画管理課長
9	学識経験者	◎宮崎 樹夫	信州大学	副学長（教育企画・戦略担当）
10	地域	斉藤 岳雄	有限会社 斉藤農園	専務取締役
11		石井 克則	黒田精工株式会社	専務取締役・工場長
12		深澤 大輔	株式会社 大王（大王わさび農場）	代表取締役
13		宮島 克夫	松本地域振興局	局長
14		斎藤 政一郎	北アルプス地域振興局	局長
15	同窓会	笠井 明	南安曇農業高等学校同窓会	同窓会長
16		山崎 完好	穂高商業高等学校同窓会	同窓会長
17		宮澤 敏文	池田工業高等学校同窓会	同窓会長
18	PTA	岩渕 かつ子	南安曇農業高等学校PTA	PTA会長
19		小岩 未佳	穂高商業高等学校PTA	PTA会長
20		大出 敏弘	池田工業高等学校PTA	PTA会長
21		小松 公平	安曇野市PTA連合会	会長
22		宗川 尚美	大北PTA連合会	会長
23	小中学校等関係者	赤羽 文恵	安曇野市校長会（穂高東中学校長）	校長会長
24		中原 敏	北安曇校長会（美麻小中学校長）	校長会長
25		山岡 勝則	安曇養護学校	校長
26	再編対象校	忠地 凌空	南安曇農業高等学校	生徒会長
27		出水 和歌	南安曇農業高等学校	生徒会副会長
28		北原 邦俊	南安曇農業高等学校	校長
29		今溝 秀雄	南安曇農業高等学校	教職員
30		小沢 伸二	穂高商業高等学校	生徒会長
31		市東 花衣里	穂高商業高等学校	生徒会副会長
32		三宅 浩一	穂高商業高等学校	校長
33		川上 忠志	穂高商業高等学校	教職員
34		中山 蓮斗	池田工業高等学校	生徒会長
35		北澤 凌雅	池田工業高等学校	生徒会副会長
36		武居 正憲	池田工業高等学校	校長
37	岩原 昌孝	池田工業高等学校	教職員	

【事務局】

学校名	氏名（役職等）
南安曇農業高等学校	（教頭） 本山 義治
	（教諭） 今溝 秀雄、川上 直子、中田 貴子、水谷 通章、矢野 良
穂高商業高等学校	（教頭） 橋本 徹
	（教諭） 浅見 大輔、有賀 詩織、川上 忠志、酒井 慎也
池田工業高等学校	（教頭） 山口 秀樹
	（教諭） 伊藤 満、犬飼 雅樹、岩原 昌孝、勝野 学

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	井出 敦	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	高橋 正俊	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	内山 みのり	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	原 周一郎	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事

第2回 安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ (案)

日時	令和6年5月24日(金) 18時～19時45分		
場所	池田町交流センターかえで ホール		
出席 (敬称略)	中山栄樹、矢口 稔、橋渡勝也、山崎 晃、栗原 裕、宮崎鉄雄、宮崎樹夫、斉藤岳雄、城山 欣範(代理)、宮島克夫、斎藤政一郎、笠井 明、山崎完好、宮澤敏文、岩渕かつ子、小岩未佳、大出敏弘、小松公平、中原 敏、山岡勝則、忠地凌空、出水和歌、北原邦俊、今溝秀雄、小沢伸二、市東花衣里、三宅浩一、川上忠志、中山蓮斗、北澤凌雅、武居正憲、岩原昌孝(以上32名)		
欠席 (敬称略)	高橋秀生、小坂喜康、深澤大輔、宗川尚美、赤羽文恵(以上5名)	傍聴	26名、報道4社、オンライン8名
事務局	南安曇農業高校	本山教頭、加藤教諭、榛葉教諭、中田教諭、山崎教諭	
	穂高商業高校	橋本教頭、浅見教諭、有賀教諭、川上教諭	
	池田工業高校	山口教頭、伊藤教諭、犬飼教諭、岩原教諭、勝野教諭	
	県教育委員会	佐野高校再編推進室長、井出主幹指導主事、高橋主任指導主事、内山主任指導主事、原(周)主任指導主事	
会議事項	(1) 第1回安曇野総合技術新校(仮称)再編実施懇話会まとめ (2) 高等専門学校、高等学校専攻科について(県教委より説明) 専攻科設置要望書提出の経過について(池工同窓会長より説明) (3) 講演「これからの高校を考える」 鳴門教育大学 大学院学校教育研究科 特命教授 藤村 裕一 先生 (4) 質疑応答及び意見交換(グループディスカッション)		
当日資料	次第、第1回懇話会まとめ(案)、高等専門学校・高等学校専攻科について、今後のスケジュール(案)、講演会資料、席図・アンケート、要望書(写)		

主な内容(・意見、質問等 →事務局)

冒頭において新構成員を司会から紹介

会議事項について

- (1) 第1回安曇野総合技術新校(仮称)再編実施懇話会まとめ 【質問、意見なし】
- (2) 高等専門学校、高等学校専攻科について(県教委より説明)
 これまでの要望書の提出の経緯について(池工同窓会長より説明)
 ・高専や専攻科について、県教委の考えを伺いたい
 →まずは3校が融合した3年間の学びについて検討し、その上で必要性があれば議論をすることは否定しない
- (3) 講演「これからの高校を考える」(別項参照)
- (4) 質疑応答及び意見交換(グループディスカッション)
 6グループに分かれて講演を踏まえた意見交換(別項参照)

その他 次の2点について提案、説明

- ・懇話会の今後のスケジュールについて、開催時間を17時30分に変更することを提案
- ・アンケートの回答方法について説明

講演会概要、質疑応答(・意見、質問等 ⇒:藤村先生)

【講演会概要】

- 高校再編を考えていく上での全国の先行事例の紹介
 宮崎県立小林秀峰高校(学科間連携)、名古屋市立西陵高校(入学後学科選択)、岡山県立倉敷鷺羽高校(次世代教育の追求)、札幌市立札幌旭丘高校(単位制)、広島県立広島叡智学園(全寮制中高一貫校)
- 教育改革の理念と具体的な取り組み
 ・予測困難な時代に対応できる教育、生徒自ら「問い」を立てる力を育成
 ・生産年齢人口の減少に対応するための教育改革の方向性、学びの形を変える必要性
- 高校改革が失敗する場合の共通点
 ・各学校の伝統にこだわり未来を見据えないノスタルジックな発想
 ・最後まで譲らず、創造的に考えて納得解を生もうとしない狭い各地域や各学校のエゴ

- ・生徒のためではなく、教職員や地域の都合を優先
- ・共感が得られる優れたコンセプトを生み出せず、議会・財政部局・地域住民を味方につけられない
- ・少子化でやむを得ない学校統合を理由にする

【質疑応答】

- ・地域密着型の教育をしていけば再編をしていなくても良いのではないかと感じた。
⇒専門高校はそれぞれの良さがあり、それぞれ必要。議論を重ねて、地元の協力を得ながら、納得解を生むように、本音の話し合いを進めてほしい。

意見交換(グループディスカッション)

【主な意見】

- ・いずれ単独では成り立たない時が来る。明るい未来のために3校一緒になることは必要。
- ・少子高齢化の中、商工農はライフラインを守る大切な分野。私たちが頑張ることが他の世代の励みになる。「伝統を守る」ことも大切だが、その先にあるべきことをやるのが先決。
- ・生徒の自由な発想や考えを大切にしたい学校づくりが実際に行われていることを知り、そうあってほしいと感じた。
- ・総合技術高校はマイナスイメージだったが楽しみになった。6次産業は興味深く、農工商が同時に学べる環境は将来のためにも良い。
- ・3校の統合は、将来が明確でない生徒にとって入学後にやりたいことが選択できるし、できることが増えて地域の活性化を図ることができる。
- ・3校の特色を活かした商品化や情報発信することで統合を前向きにとらえられる。
- ・大人のエゴではなく、子どもたちの声を聞くことが重要。3校の高校生全員の声を聞いてやるべき。
- ・何のための学校づくりかを考える必要がある。
- ・地域の産業や商品作りを通じた農工商3科を学べることなど、子どもたちが楽しんで学べるのがよい。
- ・卒業生として学校の名前を残したい気持ちと、農工商を学びたいという子どもの意見がある。地域性もあり複雑。
- ・生徒が夢中になれる学びづくりが大事。生徒たちが主役であることを忘れてはいけない。明日も学びたいという子どもたちになってほしい。
- ・地域を大事に、地域で働きたい子どもたちの期待に応えると思えるような学校になってほしい。
- ・探究に全力を注ぐ学校へ。ものづくりを中心とした新しい学校をつくるべきだと考えている。
- ・3校単独で地域を大切にしたい方向で残す努力も必要であり可能ではないか。
- ・3つの学校を1つにするだけでなく、新しい発想で考える必要がある。
- ・社会がどういう生徒を求めているか、これからの社会を見据えて、求められる生徒を育てたい。
- ・産業界は、元気があり問題解決ができる生徒を必要としている。
- ・職業高校は生徒数が少なく定員割れの学校が多い。対策を考えないといけない。
- ・一緒になっても、すぐにうまくできるわけではない。
- ・これからの情報の授業は大切。先人から受け継いだことを教えることも生きる力となっていて大切。
- ・いろいろな学校の形がある。少子化の中で農業×工業も必要。幅広い学びのための総合技術高校。
- ・講演内容がどのように総合技術新校につながっていくのか、広く議論が必要。
- ・新校完成時に新校ができるわけではない。義務教育から高校につなげていくことが必要。
- ・総合技術高校にワクワクする要素が不足している。各科の連携が取れていない部分もある。農工商の各教員の思いが先に立つのが教員の本音。
- ・各校の理解を深める必要がある。
- ・発展的に統合することに賛成。
- ・これまでの総合技術高校の総括がないままに新校を作ることに疑問を持っている。再編した学校の様子をしっかりとってから考える必要がある。
- ・中学生やその親からも意見をもらっても良いのではないかと。

その他

【次回】

日時：令和6年7月頃（予定）（開始時間調整中）

会場：（調整中）

内容：各校生徒による学校・学びの紹介（予定）

第2回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会 グループディスカッションまとめ

A グループ	<p>【理解が深まったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単体だとつらくなる時が来る。勉強するところがあるのは感謝すべきこと。 ・南農は好きだけれど明るい未来のために3校が一緒になることは必要。 ・少子高齢化のなか、商工農はライフラインを守る大切な分野。僕たちが頑張ることが他の世代の励みになる。「伝統を守る」も大切だと思うが、その先にあるべきことをやるのが先決だ。 ・生徒の自由な発想や考えを大切にしたい学校づくりが実際に行われることを知って、そうあってほしいと強く感じた。 ・総合技術高校はマイナスのイメージだったが、楽しみになった。6次産業の話はとても興味深い。農工商が一緒に学べる環境は、将来のためにも良いことだと思う。例えば動物の世話や農業を学びながら起業を学べるというのは魅力的。 ・合併したら、将来を考えきれずに高校を選択しきれなかった人たちにも選択肢がゆっくり与えられてよい。 ・合併によって人数が増えたら卒業生も多くなり、できることが増え、地域の活性化を図ることができる。 ・合併を否定的に考えるのではなく3校が集まって、3校の特色を出したものを作ったり、共有発信したりすることをしたら、より前向きに捉えることができると考えた。 <p>【どんな学校がいいか】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カフェがあったらいい。 ・個性を尊重する学校であってほしい。 ・自分たちで正しい判断ができる生徒たちの学校。 ・髪、ピアス、おしゃれが認められる学校がよい。 ・ただ教えられる授業ではなくて自分から学びに行ける学校がよい。そうすれば自分から勉強するようになる。 ・自分でやりたいことを選べるのが大切。塩尻志学館高校のような形もよい。 ・普通高校にはない、未来を見通せる環境。 ・やりたい授業を復習できるシステムをつくることによって、学べる環境を整え、有意義に時間を使えるようになると思う。
B グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・大人のゴゴではなく子供中心。3校の高校生全員の声を聞いてやるべきだと思った。 ・地域の産業や商品を作る学習を通して農工商3科を学べるのは素晴らしい。子供達が楽しんで学べるのが素敵。 ・この懇話会は何をやろうとしているのか。どういう子供たちの学校をつくらうとしているのか。何のための学校づくりかを考えなければならない。 ・池工は同窓会や職員で構成する「魅力づくり委員会」で子供の意見を聞いている。 ・講演会は素晴らしかった。卒業生としては南農の名前を残してほしい気持ちもあるし、農工商をやってみたいという子供の意見もある。 ・地域性もあって複雑である。 ・生徒が夢中になれる学びをつくるのが大事。生徒は夢中になれるのであれば、その場所にはいない。 ・明日も学びたいというような子供たちになってほしい。 ・地域を大事に、地域で働きたい子供たちの期待に応えるような学校になってほしい。 ・探究に注ぐ学校へ。ものづくりを中心とした新しい学校をつくるべきだと考えている。
C グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より池田町の町営バスを高校生以下無料にした。大変好評であり、町としてもやりようがある。 ・一緒になることでプラスになることは確かにある。農業のためにも工業、商業の力を合わせた協力を。 ・単独で地域を大切にしたい方向で残す努力も必要、可能ではないか。 ・生徒たちが主役であることを忘れてはいけない。 ・それぞれの場所が遠いため、親の送り迎えなど、大変になるのではないか。
D グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの学校を1つにすると思っていたが、新しい発想で考える必要があると思った。 ・社会がどういう生徒を求めているか、これからの社会を見据えて、求められる生徒を育てていきたい。 ・元気のあることが必要。問題解決ができる生徒が必要である。 ・生徒のことを第一に考えていくことが大切である。 ・職業高校は生徒数が少なく、定員割れの学校が多い。対策を考えないといけない。 ・もっとそれぞれで考えてから。 ・一緒になってもすぐにうまくできるわけではない。 ・企業の新人社員研修のような講演会。 ・情報を教えることは大切であるが、先人から教えてもらったことは生きる力となっていて大切である。
E グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな学校の形がある。少子化の中で農業×工業も必要。 ・幅広い学びの為の総合技術高校。 ・この頃は主体性のある子が少ない印象。普通科より専門校の方が主体的なのかも。 ・今日の講演内容は総合技術新校につながっていくのか、広く議論が必要。この先も10地域、12通学区でいいのか？ ・新校完成時に新校ができるわけではない。義務教育から高校につなげていくことが必要。 ・総合技術高校でワクワクするところがない。各科の連携がとれない。現場でがんばれというスタンス。 ・何か考えないと良い学校にならない。 ・農工商の各教員の思いが先に立つのが教員の本音。 ・各校の理解を深める必要がある。
F グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・発展的に統合することに賛成。 ・これまでの総合技術高校の総括をしてほしい。総括がないままに新校を作ることに疑問を持っている。 ・再編で合同になった学校の様子をしっかり知ってから考える必要がある。 ・中学生やその親からも意見をもらっても良いのではないか。

第2回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会 構成員アンケートまとめ

○今後の進め方についてご意見

- ・他地域の職業高校の再編の現状について知りたい。
- ・各校の教員から意見を聞いた方がよい。
- ・企業が求める学校での学びなどを産業界選出の構成員から聞きたい。

1 高等専門学校・専攻科の説明、講演を聞いてのご感想

<ul style="list-style-type: none">・高専と専攻科について整理して説明していただきよく理解できた。・我が国の教育のあり方について、変わるべき方向性を共通理解できた。・日本各地の先進的な高校改革に驚きを覚えた。
<ul style="list-style-type: none">・初めての参加でしたので、安曇野総合技術新学校に諸問題を肌感で感じることができました。・個人的には農工商高校の連携および新たな学びや産業につなげ、商品化等して安曇野ブランドになれば高校生のモチベーションアップにつながる。・あくまでも子どもたちありきの話ですが、高校生が新たな地域の活性化に繋がると良いと強く感じました。
<ul style="list-style-type: none">・様々な形態があることを知り参考になった。今後再編に向けての良い情報になった。
<ul style="list-style-type: none">・生徒さんの目線に立って、ゼロベースで進めて行くことが重要。
<ul style="list-style-type: none">・高等専門学校と専攻科の比較については理解しました。・藤村教授の講演はよかったです。勉強になりました。
<ul style="list-style-type: none">・関係者の意欲を高め前向きになる内容で講師には感謝。・事務局はこの時期に目指す教育を考え直すことを意図しているのか疑問。・講師は「生徒減少による学校運営上の規模見直しの視点から議論すべきでない」という観点から発言していたが、今回の再編は定員割れの基準から開始されており、そもそも講演内容と会議の目的は不整合ではないでしょうか。
<ul style="list-style-type: none">・総合技術高校は専門分野だけでなく、他分野の知識を持った産業人を育てる学校とされている。しかし、3年間で多くの知識を習得した人材を育成することはかなり難しい面がある。複雑化する産業に対応する人材を育成するならば、高専にして5年かけて多くの課題を抱える社会で活躍できる人材を育成できる。・でも、安曇野新校は一緒になる学校がかなり離れており、自治体も違うためそれぞれの学校に対する地域住民の思いも強いものがある。・単独農業高校として存続できるのではないかと思います。
<ul style="list-style-type: none">・内容は素晴らしかった。しかし、成功した経過が分からないので新校に結び付けるプロセスが現段では思い付かない。
<ul style="list-style-type: none">・藤村先生の生徒が望む学校に寄り添いながら新しい学校作りをして行くやり方がある事を聞き、その通りだと思いました。
<ul style="list-style-type: none">・わかりやすく、勉強になった。
<ul style="list-style-type: none">・「生徒が夢中になる学び」を実現していくための様々なアプローチを知ることができ、参考となりました。また、今後の教育の方向性もご示唆いただきました。ありがとうございました。

<ul style="list-style-type: none"> ・講演会では新しい学校づくりに生徒の考えを取り入れることが大切であること、新しい発想で学校づくりに取り組むことなどお話しいただきました。しかし、なぜ新しい発想で斬新な学校を創らなければいけないのか疑問を持ちました。時代が変わってきたからと多くの方が言いますが、これまで長い時間を掛けて築きあげられてきた高校専門教育を大切にすることも考えるべきだと思います。また、講演の最後に少子化を理由にした新しい学校づくりは望ましいものではないというお話がありましたが、安曇野新校はスタートがまさしくそれであり、良い学校づくりができるのか不安に感じました。
<ul style="list-style-type: none"> ・統合に対してマイナスなイメージであったが、見方を変えればできることや選択肢が増えていいと思った。
<ul style="list-style-type: none"> ・とても聞きやすく、過去の伝統などに囚われないという意見を聞き、新しい学校ではそれを活かして頂きたいとおもいました。
<ul style="list-style-type: none"> ・高専は県の管轄ではなく、専攻科は県の管轄だとしても非現実的である。説明は必要であったと考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学校は伝統を大事にしているあまり新しいことに触れる機会がないので今回の講演の「伝統を大事にする学校はあまり良くない」が響き、新しいことに挑戦していい方向に進めたいと思った。

2 グループディスカッションについてのご感想

<ul style="list-style-type: none"> ・専門高校の先生が「現在、定員割れに直面しながら、多様な生徒を受け入れ有為な職業人の育成に取り組んでいる。講演の内容と現実との間にギャップがある」という主旨の意見を述べておられた。生徒の意見もだが、新校を担っていただく現専門高校の教職員の方々の考えもしっかりお聞きしたいと思った。 ・ものづくりの企業の方に「どういう資質や能力をもった人を求めるか」をお聞きしたところ、「元気こそ必要」という言葉が返ってきた。指示待ちではなく何でも自分から吸収しようとする意欲がある人間を、3年間の高校生活で育てて欲しいととらえた。小中高校を通じて、これからの社会を生き抜いていかなければならない者たちには、「自ら考え判断し行動する力」を育むことが必要だと改めて感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションの内容は講演を聴いて、総合技術高校についてでしたが、総合技術高校ありきでは中々話は進まないのかと強く感じました。
<ul style="list-style-type: none"> ・時間が少なく何とも言えない。ただ個人の感想を述べただけでありディスカッションにならなかったのは残念。
<ul style="list-style-type: none"> ・今更ですが、まだ高校再編について否定的な意見が多かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・講演の内容と総合技術高校がどう繋がっているか、説明不十分、理解不十分の中、グループディスカッションは意味がありません。
<ul style="list-style-type: none"> ・時間もなく、何を意見交換するための意図か不明でした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションする十分な時間が必要と思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・まだ、ディスカッションするテーマになっていない。
<ul style="list-style-type: none"> ・あまり時間もないのに加え、いろいろ理想をあげても、現実問題難しいと諦める大人の話し合いであり、これからの未来のある子供達の事はあまり考えていない様子だった。
<ul style="list-style-type: none"> ・短い時間でしたが、全員の思いを聞けて良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の暮らしを知ることは、これからの学校づくりに大切な視点であると感じました。
<ul style="list-style-type: none"> ・時間が短く、皆さんの意見を聞くことも、発言することも十分にできませんでした。

<ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒の意見を聞いて自分と違う意見が沢山あっておもしろいと思った。それぞれの高校の特色がなくなったら不安とおもった。
<ul style="list-style-type: none"> ・最初は大人だらけで意見を上手く伝えられるか不安でしたが、生徒同士で話し合う中でどんどん自分の気持ちを伝えることができるようになり、話しやすい環境でした。
<ul style="list-style-type: none"> ・短時間であり、一部の言いつばなしと言う感想を持った。前向きな健全的な発言に対し、保守的な立場の声が大きく、雰囲気が悪くなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いがスムーズに進み、お互い意見を活発に出し合えた。意見の中には共感できるアイデアややってみたいという気持ちになるものがあり、とても良い時間だった。

3 懇話会開始時間など今後の進め方について、ご意見がありましたらお書きください

<ul style="list-style-type: none"> ・最初は名簿順に座った全体会の隊形がよい（名刺交換や顔を覚えるため）。 ・会議時間は、できれば昼間を希望します。
<ul style="list-style-type: none"> ・お話をされたい方の意見は、事前に提出して集めまとめて事前配布頂けたら、うまくいくかと感じました。 ・また、次回は3校の正副生徒会長の意見を重視して発表頂きたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・開始時間については、高校生が参加するならば早めのスタートでもよい。 ・今後講演会などは必要ないので、話し合いの時間がほしい。 ・今後の進め方については、もっと様々な方からの意見を述べる回を設けたら良いと思う。 ・3校のそれぞれの考え方があるのもっと各高校から意見を聞いた方がよい。
<ul style="list-style-type: none"> ・高校再編について否定的な意見が多くあり、前に進んで行かない。しっかり意思統一が必要と感じました。
<ul style="list-style-type: none"> ・この懇話会のやり方は考えた方がいいのではないかと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・参集可能な範囲で平日の午後のなかで早めることに賛成です。
<ul style="list-style-type: none"> ・開始時間は5時から出来るのではないかと思います。学校の先生も生徒も可能とのことですが。 ・少子化だけでなく、地域の中の学校であることを考えなければならない。まだ、地域や産業界からの話を聞いてないので、今後聞いてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・グループ討議の内容が参加者共通のテーマになればと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒達も参加しているので、次回から時間を早める事は良い事だと思います。ただ、私達も会社勤めなので、あまり早すぎると時間に間に合わないか、参加出来なくなります。
<ul style="list-style-type: none"> ・高校生中心に時間を設定してください。
<ul style="list-style-type: none"> ・懇話会の開始時間は、高校生の負担とならない時間設定がよいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・多くの方のご意見を聞けるような懇話会にして欲しいと思います。構成員のみなさんがどのような考えで、この懇話会に参加されているか、ぜひお聞きしたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・資料がわかりやすくまとめてあったらいいと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・時間に余裕のある懇話会にして頂きたいと思った。
<ul style="list-style-type: none"> ・開始時間は確かに、生徒参加のため早めて良いと考えます。初めて参加させていただいた雰囲気では、意見の言いつばなしの場にしかならないと思います。

4 その他に何かありましたらご自由にお書きください

<ul style="list-style-type: none">・会場の冷房がよく効いていて少々つらかったです。
<ul style="list-style-type: none">・2回参加させていただいたが、本当に現場の方が再編に賛成か疑問に思った。・他地域の職業高校の再編についての現状や現場の先生方の意見を知りたい。・再編決定のプロセスが真剣に行われてきたか疑問に思う。・私自身の感想ですが、少子化だから再編は難しいかと思う。単独農業高校が長野県からなくなることは長野県農業にとって担い手問題や食料問題につながってくるのではないかと思います。・今後少子化は避けられない問題であるので、特色のある高校づくりは必須であると思います。安曇野は長野県、全国を中心でもあり農業県でもある長野県に全国を対象とした未来の農業者を育てる農業専門の高専を設置し、池田工業（スマート農業、IT 農業）、穂高商業（6次化、マーケティング、経営など）それぞれの高校の強みを農業分野で生かし、安曇野から全国へ農業後継者を目標に設置してもらえれば、今後農地問題、地域農業の衰退、食料問題が起こりえる事態になったときに対処できる人材を育ててあげればと思います。・いち農業者の立場から、国の農業政策を見れば国は農業を重要視しているとは思えないと思っています。教育の現場から農業改革を行い、国に頼らない農業を目指してもらいたいと思います。
<ul style="list-style-type: none">・南農校長先生は現行の農業課程の教育の質と量が維持できないことに強い疑問を持っていました。・講師先生の「将来への発展可能性」、現場の教職員の「現場目線からの視点と疑念」同窓会関係者の「地域と存続へ強い思い」がそのまま意見になり、求めるところが一致しない(それぞれの思いの相互理解がない)ままでの会議の継続には事務局として十分検討いただきたい。
<ul style="list-style-type: none">・担当者が短期間で代わり、大変だと思います。精神的に悩まないようにしてください。
<ul style="list-style-type: none">・農業、工業、商業、それぞれの専門家が懇話会に参加しているので、出口として、高校卒業後、どのような人材が求められているか話をしてもらったらいかがか。
<ul style="list-style-type: none">・今の生徒達がどの様な未来の学校を望んでいるのかの思いを組み、その上で3校の特長をいかしながら地域の方々と協力した再編を目指して行けると良いと思います。
<ul style="list-style-type: none">・該当校が前向きでなく、保守的な考えが主流であると感じる。本校のような、前向きな改革に至ると思えず不安に思う。

未来に挑戦するための総合学科高校

目指す学校	○挑戦	様々なことに挑戦し、失敗しても粘り強く取り組む力を育む
	○創造	自己と他者を見つめ、社会と積極的に関わりを持ち、変化に柔軟に対応できる創造力を育む
	○協働	地域から世界まで、幅広い視野を持ち、他者と協働し未来社会に貢献できる人を育てる

総合学科×ESD(持続可能な開発のための教育)

- キャリアデザイン
- 多彩な科目
- 探究学習・ESD

○多様な進路希望に対応できる教育課程

- 自分だけの時間割を作成
 - ・キャリアデザイン・ライフデザインに繋がる多彩な系列(科目群)から自由に選択
 - ・大学進学に特化した科目選択も可能
- バリエーションに富んだ学び(系列=科目群)
 - ・普通科目(国語、数学、外国語、芸術等)と専門科目(工業、商業、農業、家庭等)に加え、デジタル(AI、ロボット)、福祉、観光等の現代的な課題にアプローチする学び

○自分の「好き」や「強み」を究める学びを卒業単位として認定

- 単位制の自由度を活かした学校外の様々な取組などを単位認定
 - ・ボランティア活動や長期インターンシップ等の体験的な学び
 - ・英検・漢検などの各種資格取得
 - ・長期・短期の海外留学
 - ・大学生や地域の方とともに取り組む自主的な探究活動
- オンラインの活用等による学び
 - ・大学の講義の受講(先取り履修)、専門学校での体験的な授業や他の高校の授業の履修

○環境、地域の課題や国際理解について地域と協働して取り組むESD

- 地域全体を学びのフィールドとした学習活動
 - ・多様性受容力を高め、学びを深めるための地域共学共創コンソーシアムとの連携(地域の人などを外部講師として活用した授業、地域と協働したフィールドワーク等)
- 異文化理解を深めるための海外との交流や海外留学への支援
 - ・国内外のユネスコスクールとの交流やESD協働学習
 - ・国内外の姉妹校との交流
 - ・地域の教育資源(観光等)を活用した国際交流
 - ・地球規模の課題(平和、貧困・格差等)に取り組むための学校が独自に設定する科目
 - ・信州つばさプロジェクトの積極活用

地域共学共創コンソーシアム



大学・専門学校
幼保小中高



研究・医療
福祉機関



地域産業



自治体

ユネスコスクール



実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校

生徒像 育てたい

- 探究的な学びにより身に付けた力で自分の未来を積極的にデザインできる生徒
- 他者や社会と主体的に協働できる、コミュニケーション力を持った生徒
- 多様な他者とながら、新しい価値を生み出し、よりよい社会実現のために学び続ける生徒

学校像 目指す

- 地域をフィールドとした探究的な学びをとおして、課題発見解決能力を育む
- 学科や学年を超えた協働的な学びをとおして、キャリアデザイン力を育む
- 地域とともに学び、主体的に地域の未来を創造する力を育む



地域の未来を、地域の方々と共に創る
コミュニティデザインハイスクール



4 学科の連携で地域の未来づくりに参画



学びの柱

- ◆ 実体験をとおして、自分と地域の未来を創造する学びを展開
- ◆ 各科の学びの成果をもとに協働的な探究を実施
- ◆ 情報リテラシーを徹底して学習し、いつでも、どこでも、ICT を積極的に利活用

具体的な取組

- 校外学習、校外活動の単位認定 (ボランティア、大学の講義、海外留学など)
- 全学科でのデュアルシステム (校外での実践的な学び)
- 世代を超えた交流学习 (中学校との合同探究発表会、地域への公開講座など)
- 生徒自らが学校を創造していく自主的活動 (生徒会活動と部活動)
- 探究の学びを深化させる「地域連携コーディネーター」が校内に常駐
- 地域との協働による生涯学習の拠点づくり

単位制 学科の枠を超え、他科の専門科目も履修して自身の学びを深化

連携 学校を飛び出してのアクティブな探究活動を学びの中心に
コミュニティデザインを研究する国内外の大学との連携
地域を学ぶ国内外の高校生と交流

地域の方々との共同研究

新校が生涯学習の拠点

須高地域共学共創コンソーシアム

